

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 福岡県

【学校名】 飯塚市立飯塚第一中学校

【テーマ】 I II III IV (V)

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「する」「見る」「支える」スポーツイベントへの
意識向上を目指した保健体育科学習指導の工夫

【実施学年、部、講座等】

第1学年2組（男子14名・女子17名）

【目的・ねらい】

スポーツイベントには、どのような関わり方があるのかを知り、2020年の東京オリンピック・パラリンピックをはじめとする様々な国際イベントから、自分たちの身近なスポーツイベントへの関わり方を考え、関心を高めることをねらいとする。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科(保健体育科) ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組 ()

【実践内容等】

(実践内容)

1 実践タイトル設定の理由

2013年9月。IOC総会において、2020年のオリンピック・パラリンピック開催都市が東京に決定した。このことは、生徒たちにとっても大変大きな出来事であったと考えられる。このことを、保健体育科の授業の中で取り扱い、生徒たちの2020年東京オリンピック・パラリンピックに対する興味・関心を高め、さらには、特別活動の体育的行事や、身近なスポーツイベントへの自主的な参画や、望ましい人間関係の構築に繋がりたいと考え取り組みを進めた。以下に、実践の報告をまとめる。

2 実施内容

- (1) 実践日時 平成28年2月5日(金) 第5校時
- (2) 授業内容 体育理論：「スポーツへの多様な関わり方」
- (3) 実践授業の検証方法
 - ①実践前と後での生徒の意識変容の分析(アンケート)
 - ②生徒の授業後の記述分析
- (4) 授業の実際
 - ①導入

導入時に、生徒たちの本時に対する興味・関心を高めるために、前回大会(ロンドン大会)開会式の画像を見せた。画像を見た後で、「この大会では約25万人の人々が様々な形で関わって



いました。では、選手として関わった人数はどれくらいだと思う？」と質問を投げかけた。生徒たちは、正解（10,666人）を聞いて、「じゃ、残りの24万人は？」と早速疑問を抱いていた。そこで、本時のねらいの一つでもあるスポーツイベントへの関わり方、「する」「見る」「支える」という関わりについて説明を行った。

②展開

展開では、「する」「見る」「支える」という視点を、より深く捉えさせるために、1984年のロス五輪女子マラソン（アンデルセン選手）の映像を視聴させた。3分間ほどの映像だが、極度の脱水症状の中、必死でゴールへ向かう「選手」と、それを大歓声で見守る「観客」、また、一番近くで手をさしのべようか、ゴールさせようか選手を支える「大会役員」たちの姿が見事に映し出される。生徒たちは、選手、役員、観客という三者の立場に分かれ、それぞれの心境に迫り、互いに意見交流するという協調学習の手法に取り



組んだ。

4. 映像を見て、話し合ったことを自由にメモしよう！

(アンデルセン)	(審判)	(観客)
苦しいけどゴールしたい 国のために... ゴールが遠い...	目撃したいけど応援 支えられるなら支えたい	応援したいけど 他国だから応援し て元気を上げて!!!
三者が一体となりゲートを盛り上げ感動を呼ぶ!!!		

この手法の特徴は、1人の生徒が3者の心情を読み解こうとするのではなく、生徒3人がそれぞれの立場に分かれて一人の心情に迫り、自分なりの解釈を仲間に説明し、仲間から違った角度から

の質問や意見をもらう中で、より深まった見方、考え方を作り出していくという学習方法である。生徒が記入したワークシートを見ると、3人がそれぞれの立場に立って考えたことを交流し合ったことで、様々な考えが記入されている。

③まとめ

まとめの時間では、オリンピックから離れ、自分たちの身近な生活に目を向けさせた。部活動、体育会等様々なスポーツイベントに、どのような関わり方ができるか。生徒たちは、真剣な表情でワークシートに自分の思いを記入することができた。下の資料は、生徒が書いたまとめの感想である。

5. 今後の自分とスポーツについて考えてみよう。

私は、選手としてアンデルセンのようにあきらめない心を持って、また、選手としてはいじめられない行動をしたいと思います。他人の裏切りは支える、応援する人がいることを忘れず、プレーをしたいと思います。

5. 今後の自分とスポーツについて考えてみよう。

私は今後のスポーツでは見る、つまり観客側になろうと思いましたが、私はあの運動が得意な方ではありません、なのでその分がんばって走ったりプレーをしてほしい人がいたら、その人の一生懸命に応援していきたくて、それなら私の中にあるスポーツの考え方が変わるかもしれないです。

資料の男子生徒は、運動部活動に所属する生徒であり、改めて「周囲の支えへの感謝」を述べている。右の女子生徒は、部活動には所属していないが、この授業を受け、自分の今後のスポーツへの見方や考え方が変わるかも知れないと述べ、本実践が生徒の心に届いたことを表している。

【実践上の工夫点、留意点等】

- ・導入での、テレビ画面を活用しての画像視聴
- ・展開における実際のオリンピック映像視聴
- ・映像視聴後に行った、協調学習の手法を生かした話し合い活動

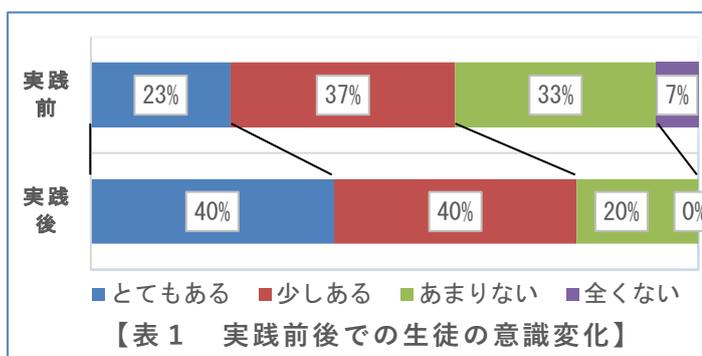
導入での工夫や、展開での実際の映像視聴など様々な工夫を行ったが、この授業での一番のポイントは、映像視聴後の協調学習の手法を生かした話し合い活動である。3者がそれぞれの立場になって思いを語り合うことで、実際の選手や当時の大会役員、観客に思いを寄せることがき、より身近にオリンピックを感じることができたのではないだろうか。



(成果)

○生徒の意識の変容

右の【表1】は、実践前と後で実施したアンケート結果である。実践前と比較して、オリンピックなどの国際的なスポーツイベントについて様々な立場からスポーツに関わることに興味「とてもある」又は「少しある」と答えた生徒が大幅に増え、2つを合わせると、80%の生徒が興味を示したことがわかる。この80%の生徒たちの中には、運動部やクラブチームに所属するなど、運動やスポーツに対して以前から関心が高かった生徒もいるが、そうではなくもともと運動やスポーツが苦手、関心も薄かった生徒たちが、「する」だけではなく「見る」や「支える」といったスポーツへの関わり方、楽しみ方を知ったことで、意識が高まった生徒が増えたと考えられる。



○生徒の記述の分析

本報告書「③まとめ」の部分で掲載しているとおり、大きなスポーツイベントや身近な運動スポーツに対する前向きな記述がほとんどを占め、意識の高まりが見て取れた。中でも、特に関心がなかった生徒が「今後、自分の中にあるスポーツへの考え方が変わるかも知れない」などの記述は、今後の取り組みに大きな力を与えてくれるものである。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

- 保健体育科だけではなく、各教科、道徳、総合的な学習の時間の中で、自分自身とオリンピックとの関わりをどのように体験させるかが課題である。
- 全職員の意思統一を図り、各教科等の中でオリパラ教育に関する単元、題材探しを行うこと。